

営農だより

飽水管理を
徹底しよう!!

入念な栽培管理で品質・収量の維持に努めましょう!!

気象庁の発表では、今年の夏も昨年同様に高温となることが予想されます。昨年厳しい気象条件のなか、皆さんに実践していただいた結果、高い1等米比率維持の一因となった「水管理の徹底」の取り組みを今年も収穫直前まで継続しましょう!

水管理の
ポイント!

- 間断通水を徹底し、根の活力を維持してください。
(フェーン現象が予想されるときは事前に通水し、土壌に水分を補給しましょう)
- 稲体の水分蒸発量が最も多くなるので通水管理に努めましょう。
(特に穂が出る前の時期は、水田に水がある状態にしましょう)

7 月			8 月			9 月
上	中	下	上	中	下	上

2日～4日毎の通水による飽水管理の徹底! (常に田面が湿った状態)

コシヒカリの出穂予想と穂肥施用 (10a当たり)

出穂予想 7月22日～24日

※今後の天候次第で早まる場合があります。

◎優米味(ゆめみ)R (16-5-10)の場合

◎有機入いしかわ穂肥一発055 (20-5-15)の場合

穂肥1回目 7月6日～8日 穂肥2回目 7月13日～15日

1 回 7月6日～8日

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

〈コシヒカリの穂肥1回目の診断目安〉

1 株 莖 数	葉 色	施用時期(幼穂長)	優米味(ゆめみ)R	有機入いしかわ穂肥一発055
少ない (21本以下) 条間が奥まで見える	適正 3.5	標準 (15mm)	17kg	24kg
	やや濃い 4.0程度	2日遅く (20mm)	14kg	22kg
適 正 (22～25本) 条間が手前30～50m くらいまで見える	やや薄い 3.0程度	2～3日早く (10mm)	15kg	18kg
	適正 3.5	標準 (15mm)	13kg	18kg
	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く (20～30mm)	9kg	16kg
多 い (26本以上) 条間が見えない	適正 3.5	標準 (15mm)	8kg	16kg
	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く (20～30mm)	7kg	14kg
	濃い 4.0以上	穂肥1回目は施用しない。穂肥2回目の時期に葉色、草丈の状態を見て施用。		

〈穂肥2回目の目安〉 1回目施用の7日後に優米味(ゆめみ)Rを基準量(14kg/10a)どおりに施用する。
(有機入いしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰とにならないように注意しましょう。

※基肥一発肥料を施用している場合は必要ありません。(必要な場合は随時お知らせします)

※今後の天候次第で変動することがあります。

ひゃくまん穀の出穂予想と穂肥施用 (10a当たり)

出穂予想 7月31日～8月2日

★現時点で幼穂は確認されていません。圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

◎優米味(ゆめみ)R (16-5-10)の場合

◎有機入いしかわ穂肥一発055 (20-5-15)の場合

穂肥1回目 7月11日～13日 穂肥2回目 7月21日～23日

1 回 7月8日～10日

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

〈ひゃくまん穀の穂肥1回目の診断目安〉

葉 色	幼穂長	優米味(ゆめみ)R	有機入いしかわ穂肥一発055
やや薄い 3.5程度	2mm	16kg	35kg
適正 4.0		14kg	33kg
やや濃い 4.5程度		12kg	30kg

〈穂肥2回目の目安〉 1回目施用の10日後に基準量(23kg/10a)どおりに施用する。

(有機入いしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰とにならないように注意しましょう。

※基肥一発肥料田の上乗せ追肥→7/15以降の葉色が4を下回る場合、出穂5～3日前に

優米味(ゆめみ)Rで13kg/10a(窒素成分で2kg/10a)施用する。

7月10日までの雑草地の除草で斑点米カメムシ類の生息場所を減らしましょう。

ゆめみづぼ・コシヒカリの生育が当初予想より早まっています!!

基幹防除

※使用基準等は、
営農ブック等で
ご確認ください。

出穂予想
(6月23日現在)

ゆめみづほ 7月10日～12日(平年比5日早い)
コシヒカリ 7月22日～24日(平年比3日早い)
ひやくまん穀 7月31日～8月2日(平年比2日早い)

《粉剤体系》

品 種	1 回 目	2 回 目	3 回 目
ゆめみづほ	ノンブラストレバリダ粉剤DL(4kg/10a) いもち病、紋枯病、カメムシ類、コブノメイガ 等 7月17日～22日【出穂後7～10日】	ダントツ粉剤DL(4kg/10a) イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、フタオビコヤガ 等 7月24日～29日【出穂後14～17日】	
コシヒカリ	ノンブラストレバリダ粉剤DL(4kg/10a) 7月17日～19日【出穂前5日】	ビームスタークル粉剤5DL(4kg/10a) いもち病、イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類 等 7月29日～8月3日【出穂後7～10日】	ダントツ粉剤DL(4kg/10a) 8月5日～10日【出穂後14～17日】
ひやくまん穀	ノンブラストレバリダ粉剤DL(4kg/10a) 7月29日～31日【出穂前2日】	ビームスタークル粉剤5DL(4kg/10a) 8月7日～12日【出穂後7～10日】	ダントツ粉剤DL(4kg/10a) 8月14日～19日【出穂後14～17日】

※散布にあたっては、朝夕等無風時に実施し、周辺圃場へ飛散させないようにしましょう。

《粒剤体系》

品 種	1 回 目	2 回 目 (カメムシ多発田)
ゆめみづほ	イモチエーススタークル粒剤(3kg/10a) いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類 等 7月3日～5日【出穂前7日】	スタークル粒剤(3kg/10a) ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類 等 7月17日～22日【出穂後7～10日】
コシヒカリ	フジワラップ粒剤(4kg/10a) いもち病、ウンカ類、ニカメイチュウ、カメムシ類 等 7月15日～17日【出穂前7日】	スタークル粒剤(3kg/10a) 7月29日～8月3日【出穂後7～10日】
ひやくまん穀	イモチエーススタークル粒剤(3kg/10a) 7月21日～26日【出穂前7～10日】	スタークル粒剤(3kg/10a) 8月7日～12日【出穂後7～10日】

適期防除で
稲を病害虫から
守ろう!!



《液剤体系》※水量は10aあたり100L

品 種	1 回 目	2 回 目	3 回 目
ゆめみづほ	ビームエイトトレボンゾル(650倍、薬剤153mL) + パリダシンエアー(1,000倍、薬剤100mL) いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類 等 7月17日～22日【出穂後7～10日】	ビームエイトスタークルゾル(1,000倍、薬剤100mL) いもち病、カメムシ類、ウンカ類 等 7月24日～29日【出穂後14～17日】	
コシヒカリ	ビームエイトトレボンゾル(650倍、薬剤153mL) いもち病、カメムシ類、ウンカ類 等 7月17日～19日【出穂前5日】	ビームエイトスタークルゾル(1,000倍、薬剤100mL) 7月29日～8月3日【出穂後7～10日】	スタークル液剤10(1,000倍、薬剤100mL) ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類 等 8月5日～10日【出穂後14～17日】
ひやくまん穀	ビームエイトトレボンゾル(650倍、薬剤153mL) + パリダシンエアー(1,000倍、薬剤100mL) 7月29日～31日【出穂前2日】	ビームエイトスタークルゾル(1,000倍、薬剤100mL) 8月7日～12日【出穂後7～10日】	スタークル液剤10(1,000倍、薬剤100mL) 8月14日～19日【出穂後14～17日】

コシヒカリの 倒伏指標

時 点	イネの様子・型
出穂25日前 (7月1日頃)	●主幹上位2葉目(止葉から3葉目)の葉身長が42cm以上の場合
出穂10日～15日前 (7月10日頃)	●草丈が90cm以上の場合 ●第5、4節間が合わせて12cm以上の場合

倒伏軽減剤

倒伏は、品質の低下、収穫のロスを生産面では大きなマイナス!!
倒伏が懸念される場合は、最後の手段として倒伏軽減剤の散布を検討する。

薬 剤 名	散布量(10a)	使用時期	使用回数	散布時の注意事項
スマレクト粒剤	2～3kg	出穂10日～15日前 (厳守)	1回以内	○湛水状態で均一に散布する。 ○散布後7日間は、落水やかけ流しはしない。

新規作付
の方

令和9年度に大麦を出荷される生産者の方へ

あらたに令和9年産大麦を出荷予定の方は、播種前に出荷契約等の手続きが必要となります。
出荷契約書の記入・提出が済んでいない方は、支店TAC又は営農推進課までご連絡ください。

